

## 平成26年度第1回

### 山梨県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会開催概要

1 開催日時 平成26年7月24日(木) 10:00~12:00

2 開催場所 山梨職業訓練支援センター 会議室b

3 協議内容

(1) 平成25年度事業実施状況及び平成26年度事業実施計画について

(2) その他

4 議事経過

はじめに、平成26年3月に完成した離職者訓練紹介動画を放映後、資料に沿って事務局から説明を行い、意見交換を行った。

各委員からの主な意見は以下のとおり。

- ◇ 離職者訓練は、失業時におけるセーフティネットとしての役割を担っているため、対応が難しい求職者もいるのは理解しているが、希望者ができるだけ利用できるよう対応してほしい。
- ◇ 企業内で、良好な人間関係が築けない、コミュニケーション能力に欠けるなどの若者が増えていることは、社会的な問題であると認識している。不安定な就労から抜け出せない非正規雇用労働者と言われる方々を対象とした「橋渡し訓練」は、重要な仕組みだと思う。来年度以降、産業技術科以外のコースでの実施や更なる充実を求めるとともに、検証結果を是非聞かせて欲しい。
- ◇ 入所者に女性が少ないのは、ものづくり分野における伝統的な性別分業の意識が長く続いているからであろう。政府としても女性の社会進出の促進に取り組む方針が打ち出されている。学校教育の場でも啓発を推進していくとともに、これまでの固定観念を打破していく必要がある。  
例として、溶接は決して男性の職業では無くなってきている。使用者側として、女性に考慮しなければならないものはあるが、観念論だけでなく、実際に行動を起こさなければならないと思っている。
- ◇ ポリテクセンター山梨の入所者の特徴として、20代~30代の若年者が比較的多い理由として、非正規求人が多い中、製造業での安定雇用を希望している方が多いのではないかとと思われる。
- ◇ 山梨県には研磨などの伝統的地場産業があり、その活性化が求められる。そのためにも、ものづくりの現場から販売までのプロセスをトータルで人材育成支援する仕組みができればよい。
- ◇ うつや精神疾患などにより、働くことができない人が増えている。  
学校と名の付くところは人材育成をしなければならない。ポリテクセンターには職業人の育成を期待したい。心の問題が大切であり、ポリテクセンター単独の支援だけではなく、例えば民間のNPOなどとの連携による支援の充実も求められる。  
求職者支援訓練においても、人材育成の役割を担っていただきたい。
- ◇ 離職者訓練修了者のフォローアップができる仕組みがあるなら取り組んでいただきたい。

- ◇ 技能検定受験職種の傾向として、ポピュラーな技能職種の受験が増えている。ポリテクセンターには、ベーシックな技能習得の支援もお願いしたい。
- ◇ ミスマッチで離職する人がいる。これを回避するため、特に製造業においては、学卒就職内定者も含め、就職する前に資格取得を支援する制度や機関があるとよいと思っている。
- ◇ 非正規従業員に対する人材育成を行う企業は少ない。国としては、キャリアアップ助成金制度やキャリア形成促進助成金制度で支援する仕組みがあるので活用していただきたい。

運営協議会委員	
萩原 親作	山梨大学工学部機械工学科教授
堤 マサエ	山梨県立大学名誉教授
清水 健	株式会社山梨日日新聞社論説委員
中澤 晴親	日本労働組合総連合会山梨県連合会会長
小林 明	甲府商工会議所事務局長
小池 基次	山梨県経営者協会専務理事
新海 一男	山梨県中小企業団体中央会専務理事
深澤 博昭	山梨県商工会連合会専務理事
中出 英三	一般社団法人山梨県鉄構溶接協会会長
佐藤 和弥	山梨労働局職業安定部長
萩原 憲二	山梨県産業労働部産業人材課長
水口 明臣	山梨県職業能力開発協会専務理事